日本経済新聞（夕刊）　2012年（平成24年）10月16日（火曜日）

小学校の帰り道、子どもを見守る監視網が広がる一方で、安心して遊べる場は確実に減っている。共働き家庭の子を預かる学童保育も不足がち。預かり時間が柔軟で勉強や遊びも存分にさせたい……。親たちの期待に応える場が静かに広がり始めた。

子どもの居場所

—放課後 長い帰り道

下

塾で駅で遊びも勉強も

親に応える多彩メニュー

「カニはサルと一緒に何を拾いましたか」。音読を教材にした講師の問いかけに、「にぎりめし」と小学1年生たちが元気な声をあげた。その一方で小学3年生は「祇園精舎の鐘の声……」と平家物語の音読と書写に余念がない。

ここは広島市にある民間学童保育ラブキッズ。学習塾を運営するSコーポレーション（広島市）が、2011年春に立ち上げた施設で、30人余りの児童が通う。

一般的な学童保育は勉強の面倒は見ないが、ここでは小6まで預かり、宿題や独自教材で勉強させたり、遊びながら世界の国旗を学ばせたりと、様々なプログラムが用意されている。

車で送迎

預かり時間は午後7時までが基本だが、事情によっては午後10時まで対応。夕食も出す。しかも離れた学校からは車で送迎。到着すると保護者にメールを送る仕組みもある。

10月上旬のある日、午後7時前に小2の男の子を迎えに来た母親は「勉強を見てもらえるし、お兄ちゃんたちに遊んでもらえるのでありがたい」と話す。この日の最後の迎えは午後7時半過ぎ。小2の女の子を迎えに来た母親は「他の学童保育は午後6時半までで、それまでに仕事は終わらないので、費用はかかるがここを選んだ」と話す。

共働き家庭にとって小学生の放課後は以前から問題だった。従来の学童保育は小3までの施設が半数近い。預かる時間が短かったり、習い事の掛け持ちが難しかったりすることも多い。「安全に遊び勉強もさせたい」と望む親たちに企業が応えた形だ。

広く拠点展開し利用者を集める施設もある。首都圏の東急電鉄沿線を中心に、駅付近で17カ所を運営するキッズベースキャンプ（東京都世田谷区）だ。

9月末のある日、キッズベースキャンプ桜新町に「ただいまー」と声を張り上げ、男の子が戻ってきた。近くのそろばん教室からだという。同施設は習い事を掛け持ちできるのが売り物の一つ。学校から一度施設に来て、塾の時間に出かけていく。終わればまた施設に戻って過ごすという具合。施設内のボードには子どもの名前と習い事の時間が詳しく記されていた。

「週3日は数学塾に通わせ、2日はここで思いっきり遊ばせている。柔軟な使い方ができるのがありがたい」。小3の男の子の母親は満足そうに語る。

そして午後7時になると残っていた子ども8人がスパゲティやスープ、果物などを自分たちで配膳してにぎやかに夕食。この日は午後9時まで2人が残った。

企業の動きは加速している。首都圏では小田急電鉄が3月からキッズベースキャンプ同様の事業を始めたほか、静岡鉄道も来春に開始する計画。リソー教育は小3までの子に保育と受験指導を提供する事業に力を入れるなど、鉄道会社や学習塾が目立つ。

もちろん、これらの施設は難点もある。一般の学童保育の多くは毎月の費用が1万円以下なのに対し、企業運営の施設は週5日利用で月3万円以上、中には10万円を超す例もある。誰でも使えるとは言い難い。

学校も開設

ただ、学童保育不足は保育園の待機児童問題のようには注目されていない。学童保育がニーズに十分応えていない面もある。親たちの一部が新サービスに流れるのは自然だろう。

子どもたちの安全な居場所を求めるのは親たちだけではない。私立の小学校、自由学園初等部（東京都東久留米市）は今春、著名人らを講師に招くプログラムで知られる放課後NPOアフタースクール（平岩国泰代表理事）と連携し、学童保育を始めた。同学園は幼少期は家庭教育を重視することで知られるが「近年は共働き家庭の子が増えた」（同学園広報室）。そのため現実的な策をとった。

今年、全国の学童保育の利用者は最多の85万人。今後さらに増えそうだ。預け先というだけでなく、遊びや勉強の場として質の向上も求められる。

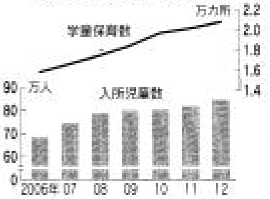
日本総研の池本美香主任研究員は英国の手法が参考になるとみる。放課後の教育や遊びを充実させるための議論が進んで、子を預かる施設を監査し情報公開する機関もあるという。日本ではこうした発想が乏しかったのは確かだろう。

企業の力も借りながら、より望ましい子どもたちの放課後を築く。大人たちの真剣さが問われている。

福沢淳子、安部健太郎が担当しました。

塾が運営する学童保育でみんなで勉強（広島市）

学童保育数と入所児童数



（注）全国学童保育連絡協議会調べ。2011年は岩手・宮城・福島県のうち34市町村、12年は福島県の9町村が調査対象外

放課後にも縦割り行政の弊害

最近は学童保育とは別に、小学校を使う「放課後子ども教室」が広がりを見せている。教室や校庭を開放するもので、遊び場確保が難しい都市部で多くの子が利用する。

東京都千代田区では区内全校を開放。教室で指導員に宿題のわからないところを教えてもらったり、囲碁やミニバスケットを楽しんだりすることができる。だが、午後5時までのため共働き家庭の子らは利用しにくいのが現実だ。

より遅くまで対応する学童保育は利用児童が定員を上回っており、新規の受け入れは難しい。学童保育は厚生労働省、放課後子ども教室は文部科学省の所管で縦割りの弊害が表れた形だ。

このため同区は午後5時以降、保護者が働く児童は指導員を別途手当てして預かる事業を07年から始めている。